

# 2023年度 国公立大学入試

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 山内 秀朗

## 1 はじめに

2023年度は、文書史料や地図・グラフ・図版などの資料読解を要求する形式の問題が多く出題され、新課程を先取りした感がある。昨年度の本誌では、戦争と戦後秩序や人権思想に関連する問題を予想したが、実際に多く出題された。関連する主権国家と主権国家体制・国民国家をテーマとした問題もめだつた。本誌でもその背景として指摘していたロシア＝ウクライナ戦争の影響からか、ロシアと周辺地域に関する問題も多かった。時間軸と空間軸、世界の一体化は例年どおり主要な出題テーマとなり、世界史の中の日本のテーマも定着してきている。

## 2 資料読解を要求する問題

資料読解を要求する問題は、東京外国語大学、一橋大学、大阪大学などの以前から出題されていた大学に加え、2023年は東京都立大学第2問で、2つの史料からの読み取りを前提とする400字以内の論述問題が出題された。また、大阪大学第2問でヨーロッパと日本で描かれてきた世界図の図版資料を参照する問題が、東京大学第1問と一橋大学第2問で地図を参照する問題が出題されるなど、歴史的史料の読解以外にも図版や地図などの読解を要求する問題が出題されていた。

## 3 主権国家・主権国家体制・国民国家に関する問題

主権国家成立以前のヨーロッパの権力構造を考えさせる問題として、前述の東京都立大学第2問は「11世紀中頃から13世紀中頃までの、皇帝権および教皇権がおかれた状況と両者の関係」を説明させる問題だった。一橋大学第1問は、大学公表の出題意図として、「百年戦争がどのような点で近代的な意味での国家間の戦争ではなかったかを問う」問題であった（例題1）。

大学公開の出題意図では、「イギリス国王が同時にフランス国王の封臣でもあり、フランス王国が王権によっ

### ■例題1 2023年度 一橋大学：第1問

第1問 ジャンヌ・ダルクの活躍によっても有名ないわゆる英仏百年戦争（1337～1453年）を、イギリスとフランスという二つの国家間の戦争と捉えることが必ずしも適切ではないとすれば、その理由は何が答えなさい。また、この戦争が結果的にフランス王国にどのような変化をもたらしたかを、上述の理由と関連付けて説明しなさい。

て中央集権的に支配されているわけではない中世という状況を理解しているかどうか」が問われている。問題文では、百年戦争の開始がイギリス王による王位継承権要求を口実とした1339年ではなく、フランス王が封臣であるイギリス王の領土没収を宣言した1337年となっていることに注目したい。この点について、『新詳 世界史B』（以下、教科書）では、「1337年フィリップ6世がギューイエンヌ地方の没収を宣言すると、イングランド王エドワード3世は母親がカペー家出身であることからフランス王位継承権を主張し、百年戦争が始まった。」(p.107)と1337年の領土没収を明記している。また、注では「フランドル伯でもあったブルゴーニュ公はイングランドと同盟関係にあったが、1435年にシャルル7世と和解した」と、大学側が要求している「王権によって中央集権的に支配されているわけではない」具体例を提示している。教科書で学習していた受験生には有利な問題であった。

主権国家体制と異なる東アジアにおける国家権力と国際秩序のあり方として朝貢・冊封の体制と、それを支える華夷思想が注目されてきた。名古屋大学の第1問は、華夷思想をテーマとする問題であり、東京学芸大学第1問の問9では朝鮮王朝の小中華思想が120字以内の論述問題として出題された。近代国民国家関係の問題としては、東京大学第1問が、1770年前後から1920年前後までに、ヨーロッパ、南北アメリカ、東アジアにおいて、諸国で政治のしくみがどのように変わったか、どのような政体の独立国が誕生したかを、地図を参照して600字以内で論述させる問題であった。九州大学第1問では、東欧・中東諸国の近代化と青年将校による反乱の関係が500字以内の論述問題で出題された。また、主権国家

体制下における戦争と平和維持の問題として、**名古屋大学**第4問で、第一次世界大戦後の国際秩序の展開が450字以内の論述問題で出題された。**大阪大学**第3問は第一次世界大戦後の平和秩序維持がなぜうまくいかなかったかを問う問題であった。**新潟大学**の第3問 問7では、安全保障理事会の構成と権限が60字程度の論述問題で出題された。人権関係のテーマについては、**千葉大学**第3問が、ジョン＝スチュアート＝ミルの『女性の隷従』を史料に、問2で奴隷制問題を要因として南北戦争を、問3でイギリスにおける女性選挙権運動と政権の変化を論述させる問題であった。**一橋大学**第2問は、モザンビークとジンバブエの独立の事情を問う問題であるが、背景として、両地域における白人支配体制と、それに対する黒人の解放運動と OAU や国際世論との関係の理解が求められていた。**高崎経済大学**経済学部中期日程の第3問は、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、世界人権宣言を史料として用いており、問12は世界人権宣言の歴史的意義を130字以内で説明する問題であった。ロシア(ソ連) 関連の問題としては、**新潟大学**第2問 問5は、「スターリン憲法」と「粛清」の指定語句を用いて第二次五カ年計画期におけるソ連の国内状況を100字以内で説明する問題だった。ロシア(ソ連)が関係地域に与えた影響では、**東京外国語大学**第1問の問9は、英露清三国の中央アジアへの関与と相互関係を400字以内で論じる問題で、**一橋大学**第3問がロシアと中国の関係の変化と中国に与えた影響を400字以内で論じる問題であった。**筑波大学**第4問では1910年代から1980年代までのチェコスロヴァキアの歴史が400字以内の論述問題として出題されたが、指定語句には「共産党によるクーデタ」「プラハの春」「ペレストロイカ」と、ソ連との関係の理解が必要とされるものが並んでいた。**東京学芸大学**第4問 問1の③は、クリミア戦争から露土戦争までのロシアとオスマン帝国の対立過程を300字以内で論じるもので、問3の②ではペレストロイカを、問4では独ソ不可侵条約による第二次世界大戦勃発後のポーランドの状況を述べる問題であった。

#### 4 時間軸・空間軸、世界の一体化に関する問題

**京都大学**の第1問は、5世紀から12世紀におけるモンゴリア、第3問はアンダルスの成立から消滅にいたるイベリア半島の歴史をそれぞれ300字以内で問う問題で、いずれも時間軸の問題であった。**大阪大学**文学部でもイベリア半島の歴史が出題された。空間軸では、交易

関係の問題が2023年も多く出題された。**筑波大学**第2問は、宋～明初期の中国王朝の国内商業と対外貿易を400字以内で説明する問題であった。**千葉大学**第2問は、銀の流通に関して、問2で銀とアカプルコ貿易を、問3で一条鞭法をあげつつ銀流入による明社会の変化を、問4で16世紀の銀流入によるヨーロッパ農村社会の変容をそれぞれ100字以内で説明する問題であった。**九州大学**第2問の問7では、明の交易秩序再編の経緯が、**北海道大学**第1問の問3ではカーリミー商人の活動と交易路の変動、第2問の問6では元の交通網が問われた。**大阪大学**外国語学部第1問 問3では、フランス王のモンゴル皇帝への提案の背景が300字程度で問われた。

#### 5 「世界史の中の日本」に関する問題

**新潟大学**第2問の問7では、韓国併合の過程が90字以内で問われた。**東京学芸大学**第3問は、図と史料で18世紀～20世紀初頭の東アジアの国際関係を出題したもので、問3では朝鮮通信使が解答として要求され、問8ではこの時期の朝鮮国の国際関係の変化の説明が180字以内で要求された。先述の**大阪大学**第2問では、ヨーロッパと日本間の情報交換の歴史が出題された。**名古屋大学**第3問は日本・中国・台湾の関係を問うもので、二・二八事件についても問われた(例題2)。

#### ■例題2 2023年度 名古屋大学：第3問 問8

問8 (前略)台湾では日本による統治が終了した後、中国大陸から台湾に渡ってきた外省人と、もともとの台湾の住民であった本省人とのあいだで対立が深まり、1947年に□ツ□事件が発生した。(略)

台湾の外省人と本省人の対立について、教科書では「現代につながる諸問題⑦模索する台湾」(p.228)で扱い、『最新世界史図説 タペストリー二十一訂版』(以下、『タペストリー』)のp.301にも記事がある。二・二八事件は教科書本文(p.291～292)に詳しい記述がある。日本を含む東アジアの近現代史については、教科書や『タペストリー』を使ってしっかりと学習しておきたい。

#### 6 来年度の展望

史料だけでなく、地図や図版の読解を要求する問題への対応を進める必要がある。また地理的理解と年代的理解は、空間軸と時間軸の問題はもちろん、国公立大学の二次試験で多く出題される論述問題では必須である。現在世界で起こっていることを、歴史的に考察する視点の問題も多く出題される。国際秩序と人権のテーマは2024年入試においても注意しておきたい。